

# 外来種の分布調査

2639 山田真由香 2535 三尾奈々

## 要旨

東濃地域の外来種の生息範囲を調べ自然界に及ぼす影響について考え探究することを研究目的とした。調査対象はオオキンケイギクとオオハンゴンソウの2種とし、過去の生息域との変化を調べるために現地調査を行った。その結果、中津川市のみ外来種の外来種の分布状況が把握できた。また、山林よりも市街地や道沿いに分布が多く確認された。このような結果から、外来種は車などによって種が運ばれ、道沿いに多く分布していると考えられる。今後は効果的な駆除方法を考える必要がある。

### 1. 目的

外来種の生息範囲を調べ自然界に及ぼす影響について考え探究すること。

繁殖生態は頭状花，虫媒花，瘦果である。繁殖期は7月から10月で明治中期に観賞用として導入された。

### 2. 仮説

外来種の生息域が広がり、在来種の生息域を奪っている。

### 3. 調査対象種

調査対象種は、オオキンケイギク、オオハンゴンソウの2種とした。この2種は、過去の文献により、確実に県内に分布する特定外来生物であることが確認されている。

オオキンケイギク（写1）は、北アメリカ原産で、繁殖生態は頭状花，虫媒花，瘦果である。繁殖期は5月から7月で、1880年代に観賞用，緑化用として日本に導入された。



写2



写1

オオハンゴンソウ（写2）は北アメリカ原産で

### 4. 調査の手順

#### ・現地調査

自動車や徒歩などによって目視で外来種を探索する。

#### ・QRコードを活用したアンケート調査



調査対象種の分布の有無および蔓延状況を把

握するために恵那高生を対象としたアンケートを作成した。アンケートには発見した対象種の名前と場所を記入してもらう。また QR コードを添付したチラシを校内に貼りコードを読み取ってアンケートに答えられるようにした。

・聞き込み調査

市役所などの自治体から情報提供してもらう。主な対象は東濃地域の中津川市, 恵那市, 瑞浪市, 土岐市, 多治見市の市役所の環境課などである。各々に電話で問い合わせて詳しい状況を聞く。

5. 結果

・現地調査

中津川市でオオキンケイギクがおよそ 5 か所オオハンゴンソウがおよそ 3 か所確認できた。

・QR コードを活用したアンケート調査

アンケートに返答してくれたのが 2 件だった。そのうちの 1 件は対象種の名前は記入されていたが発見した場所が記入されていなかった。

これらのことからデータを十分に得ることができなかったのはチラシの掲示を宣伝しなかったことと、それによって協力を得にくかったことが考えられる。

今後の改善策としては十分なデータを得るために校内にチラシを掲示するだけでなく生徒一人一人に詳しい説明をしてチラシを配布する。また調査規模を校内だけでなく地域の方々まで広げる必要がある。

・聞き込み調査

恵那市, 瑞浪市, 土岐市, 多治見市, では外来種の駆除方法についての活動は行われていたが, 分布状況に関してのデータの収集は行われていなかったためこれらの市の分布状況は把握できなかった。しかし, 中津川市のみ独自の調査が行われていたため H25 から R1 にかけての分布状況が把握できた。(図 2) また岐阜県庁でも県内の外来種の分布状況を 5 年ごとに調査していたためオオキンケイギクでは H23, H28 年度の分布状況のデータを得ることができた。(図 1) オオハンゴンソウでは H28 のみ分布状況のデータを得ること

ができた。(図 3) このことから調査範囲を東濃地域から中津川市のみにしぼった。

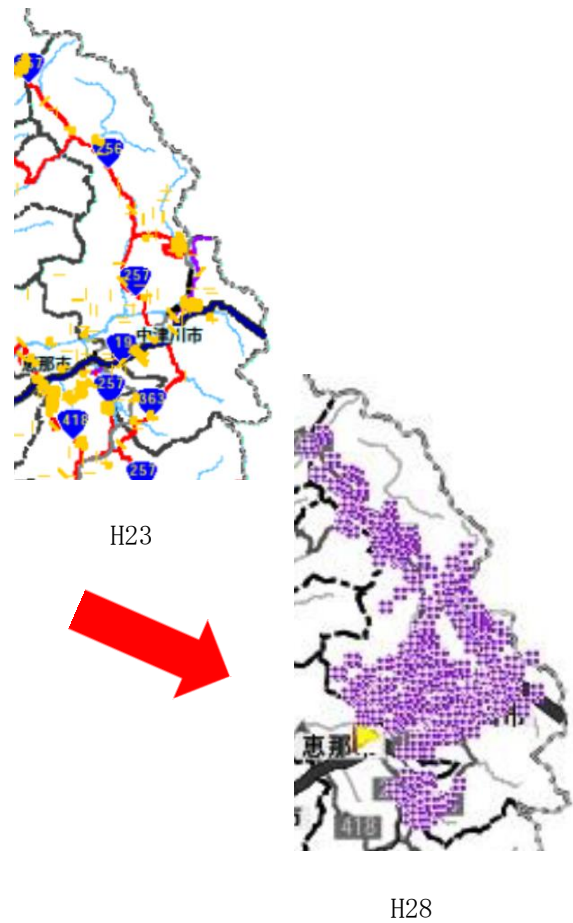


図 1 H23 から H28 時点で把握しているオオキンケイギクの分布状況  
岐阜県庁より

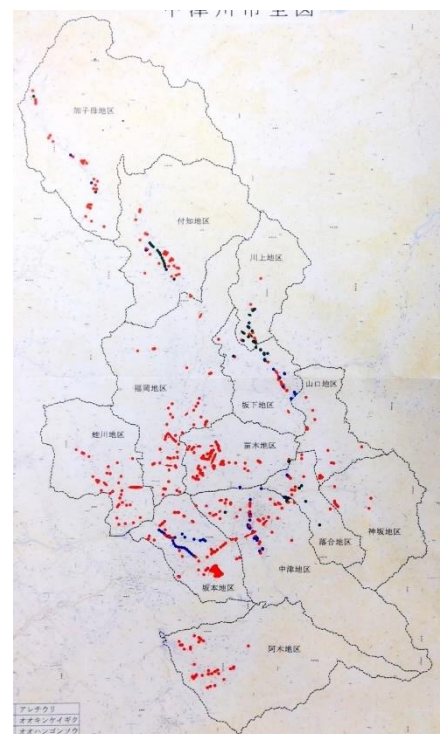


図2 H25 から R1 時点で把握しているオオハンゴンソウの分布状況  
中津川市役所より



図3 H28

図3 H28 で把握しているオオハンゴンソウの分布状況  
岐阜県庁より

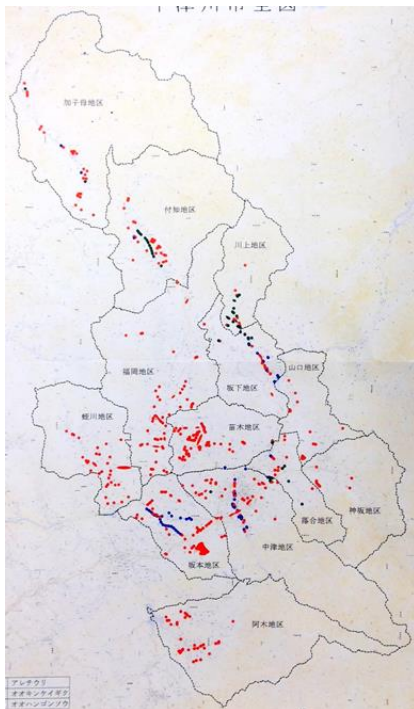


図2

※図2ではオオキンケイギクを赤の点  
オオハンゴンソウを緑の点  
青い点は関係ないものとする。

図から読み取れることとしては、過去のデータと同様でオオキンケイギクの方がオオハンゴンソウよりも多く確認された。また図2より山林よ

りも市街地や道沿いに多く分布が確認されたが福岡地区（図4）のあたりでは道沿いにもかかわらずあまり生息が確認されなかった。そして主な生息地に違いは見られなかった。しかし、今回の調査では分布状況については把握することができたが対象種が自然界に及ぼしている影響については明確な調査ができていなかった。また、調査範囲が中津川市のみという狭い範囲でしか調査することができなかった。これらのことも今後の課題である。



図4

## 7. 考察

結果から車などによって種が運ばれ、あちこちに自生しているのではないかと考えられる。また福岡地区で生息が確認できなかったことから土壌が何か生息に影響を与えている、もしくは調査される前に駆除された可能性が考えられる。他には特に日当たりの良いところでは基本生息できると考えられる。

## 8. 展望

効果的な駆除方法をみつける。具体的には今現在これらの2種は草刈りなどでしか駆除できない。

そのため根が残っていたり種が落ちてしまったりして結果、次の年に再び生えてしまい完全な駆除ができていない。だから今後は食用やその他の活用用途がないか探っていきたい。

## 9. 謝辞

岐阜県庁（環境課）、岐阜県の各地方事務所各位には情報収集にご協力いただきました。恵那高校の生徒および先生方にはアンケート調査にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

## 10. 参考文献, 引用文献

・岐阜県庁

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/56531.html>

・中津川市役所

<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/category/1000/>

・国立環境研究所

<https://www.nies.go.jp/>

付表 アンケートの書式

## 恵那高校生物 50 班

### 外来種分布調査

現在、外来種である「オオキンケイギク」「オオハンゴンソウ」という植物の生息地について調べています。

そこで皆さんに、これらの植物がどこに生息しているのかの調査を協力していただきたいです。

オオキンケイギク



オオハンゴンソウ



見つけた方にマークしてください。(複数可)

オオキンケイギク

オオハンゴンソウ

見つけた場所の住所を分かる範囲でお願いします。※後からマップにまとめたいので地区まで記入してくださると助かります。